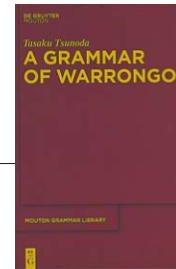


# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈著書紹介〉 Tasaku Tsunoda, A grammar of Warrongo

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2015-10-30<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 角田, 太作<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.15084/00000706">https://doi.org/10.15084/00000706</a>                       |

Tasaku Tsunoda  
*A grammar of Warrongo*  
Mouton Grammar Library 53  
2011年12月 Berlin and New York: De Gruyter Mouton  
xxx+751 ページ EUR 149.95



## 角田 太作

本書は豪州東北部の Warrongo (ワロゴ) 語の記述である。その構成は以下の通りである。

- Chapter 1. The language and its speakers (52 頁)
- Chapter 2. Phonology (103 頁)
- Chapter 3. Word classes and morphology (162 頁)
- Chapter 4. Syntax (382 頁)
- Texts (23 頁)
- References (13 頁)
- Index of subjects (10 頁)
- Index of languages (2 頁)
- Index of names (4 頁)

第1章は周辺の諸言語、文化的・社会的背景、地域の歴史、先行研究、データを提供した話者などについて述べる。第2章は音韻を、第3章は品詞と形態を、第4章は統語を詳細に記述する。

世界各地の諸言語の記述、特に、少数言語の記述を見ると、音韻と形態の記述はかなりあるが、統語の記述が少ない、あるいは殆ど無い、場合が多数ある。一方、本書では統語の記述は詳細である。第4章の頁数は本書の半分近くを占めている。

Warrongo (ワロゴ) 語の統語の面では、特筆すべき現象は統語的能格性と呼ぶ現象である。この現象は、Jirrbal (ジルバル) 語, Girramay (ギラマイ) 語, Mamu (マム) 語 (Dixon (1972: 65-77) 参照), Warrongo (ワロゴ) 語など、主に豪州東北部の約七つの言語にしか見つかっていない、世界的にみても稀な現象である。(Dixon (1994: 177-180) 参照。)

また、Warlpiri (ワルピリ) 語など、かなり多数の豪州原住民語では、名詞句は階層性を持たない。(Hale (1983) 参照。) Warrongo (ワロゴ) 語にも、階層性を持たない名詞句がある。しかし、意外にも、ある条件の下では、階層性を持つ名詞句がある。

Warrongo (ワロゴ) 語は、かつて、豪州 Queensland (クィーンズランド) 州の北部, Herbert (ハーバート) 川の上流で話していた言語である。著者は今から40年前、メルボルンの Monash (モナシュ) 大学の修士課程の学生であった時に、1971年から1974年にかけて、三回にわたり、合計約八ヶ月、この言語を調査した。この時点で既に Warrongo (ワロゴ) 語は消滅の危機に瀕していた。本書で用いた資料の大部分は最後の話者、故 Alf Palmer 氏 (ワ

ロゴ名：Jinbilnggay) から記録したものである。Alf Palmer 氏はこの言語を流暢に話すことができた。そのおかげで、詳細で膨大な資料を後世のために残してくれた。

上述のように、本書は消滅の危機に瀕していて、後に消滅した言語の記述である。主に最後の話者一人から記録した資料に基づいている。また、調査した期間は合計しても僅か八ヶ月である。このような厳しい状況の下でも、これだけ詳細な記述ができる場合があることを、本書は示している。

Alf Palmer 氏は 1981 年に亡くなり、この言語は消滅した。しかし、21 世紀のはじめに、Warrongo (ワロゴ) 語の復活運動が始まり、著者は依頼を受けて 2002 年から現地で、Warrongo (ワロゴ) の人たちに Warrongo (ワロゴ) 語のレッスンを行っている。

Alf Palmer 氏は生前、著者に常々以下のように言っていた。「Warrongo 語を話せるのは私が最後だ。私が死んだら、この言葉も死んでしまう。私の知っていることは全て教える。だから、しっかり記録してくれよ。」著者の知識不足、経験不足のために、Alf Palmer 氏の知識の全ては記録できなかったことが悔やまれる。しかし、本書は Alf Palmer 氏への、せめての恩返しである。今後、本書が Warrongo (ワロゴ) 語の復活運動に役立つことを期待する。

#### ●参考文献●

Dixon, R.M.W. (1972) *The Dyirbal language of North Queensland*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dixon, R.M.W. (1994) *Ergativity*. Cambridge: Cambridge University Press.

Hale, Ken (1983) Warlpiri and the grammar of non-configurational languages. *Natural Language & Linguistic Theory* 1: 5-47.

### 角田 太作 (つのだ・たさく)

国立国語研究所言語対照研究系元教授。Ph.D. (言語学) (Monash 大学)。Griffith 大学講師、名古屋大学助教授、筑波大学教授、東京大学大学院教授を経て、2009 年 10 月より 2012 年 3 月まで国立国語研究所言語対照研究系教授。James Cook 大学特任教授。

主な著書・論文： *The Djaru language of Kimberley, Western Australia* (Pacific Linguistics, Australian National University, 1981), Split case-marking patterns in verb-types and tense/aspect/mood (*Linguistics* 19, 1981), 『世界の言語と日本語』(くろしお出版, 1991 (改訂版 2009)), *Language endangerment and language revitalization* (Mouton de Gruyter, 2005 (Paperback 2006)) .

社会活動： *Linguistics* (Mouton de Gruyter) 査読委員, *Studies in Language* (John Benjamins) 査読委員, Pacific Linguistics 編集顧問委員, Association for Linguistic Typology 入選委員会委員長, Linguapax 顧問委員, 日本言語学会評議員, Warrongo 語 (豪州東北部) の復活運動に協力。